

(こくさいか山口 2002年10→12月号掲載記事)

～追いつけ日本 進めニッポン～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
石田 朋彦

今回はやはり釜山で開催されたアジア競技大会の話からしたいと思います。なかなか国際大会を観戦する機会のない下関出身の私には、開会式を競技場で観ることができ韓国の若者5000人余りのパワーと愛国心はいったい何処から出てくるのか感動と驚きの連続でした。おまけに、席からは北朝鮮の美女軍団をこの目で見ることにも出来良い思い出になりました。この大会には43ヶ国から10000人余りの選手達が熱い戦いを繰り広げました。いったい何ヶ国語なのでしょう？韓国語で悪戦苦闘している私には、市民ボランティアが各国の通訳として活躍している姿は、韓国の明るい未来を感じます。

さて、韓国に赴任して半年が過ぎこの間に知り合った女子大学生に色々尋ねてみましたので、その内容を少し紹介しましょう。休日は何をして過ごすのか？の質問には、一番は気のあった友達と夜遅くまで、ショッピングや食事そしておしゃべりをすることだそうです。遊び場（方法）が少ない韓国ではこうしたことが一般的のようです。私が気になる韓国の商品の一つにシンバル（靴）があります。女性用は先が長くとがっていますし、男性用も幅広でやたら長いです。いったいどれだけ先が余っているのか判りません。歩きにくくないのかなあと思うのは私だけでしょうか。そして、靴のサイズはどこを指すのかまったく不明です。

若者は日本の電化製品には一種のブランドイメージがあるようで、SONYのウォークマンシリーズは憧れのアイテムらしいです。特にまだMDウォークマンを持っている人は少ないので、親しい人のお土産には喜ばれること請け合いです。面白いのは同じブランドの洋服でも、韓国で買うと品質が少し落ちて高く、日本で買う方が安くてデザインも良いと話していました。日本で買うのがトレンドいだなんて時代だなあ・・・

街中では日本のキャラクターショップを、ときどき見かけます。キティーちゃんメインですが、生活にゆとりと潤い・夢を与えるこの手の商品はまだ少ないとも話されていました。外国の商品をコピー・改良するのは日本のこれまでのパターンでしたが、韓国も負けず劣らず技術力・工業力は素晴らしいものがあります。しかし、ゆとり製品の創造・生産はいま一歩のように思います。こうしたところでニッポンを出していけないと韓国に追いつかれるのではありませんか？

日本は物余りのデフレ状態だと言われてますが、いまこうした夢のあるキャラクター商品などを韓国に輸出したら、きっと成功するのではないかと考えております。